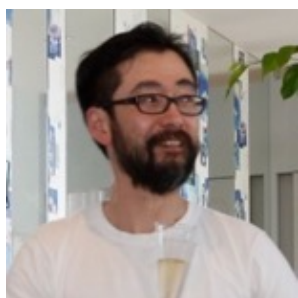
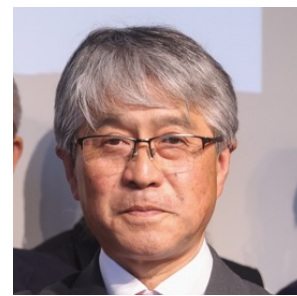
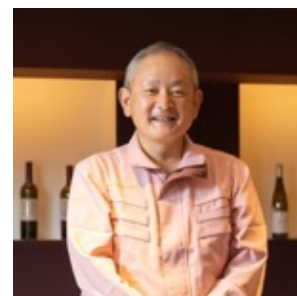




日本ワイナリーアワード® 2024 ご案内

一般社団法人 日本ワイナリーアワード協議会

日本ワイナリーアワード®は 優れた日本ワインを生み出す 醸造家・ワイナリーを顕彰しています



ごあいさつ

明治初期にスタートした日本におけるワイン造りは、21世紀になり新たなフェーズに入りました。個性豊かなワインの造り手が次々と登場し、今や全国で500社を超えるワイナリーが活動しています。日本ワインが世界的なコンクールでトップクラスの評価を得ることも珍しくなくなりました。まさに日本ワインは新時代に突入したのです。

日本ワイナリーアワードは数多くの日本ワインの中から、傑出した品質を誇るワイナリーを顕彰することを目的に設立しました。従来のコンクールのように個別の銘柄に対する評価ではなく、ワイナリーそのものを評価しています。ホテルの格付けを例にとれば、スイートルームはもちろん、スタンダードクラスの客室でも十分に満足できるような品質をイメージしていただけるでしょう。アワードで選出されたワイナリーが生み出すワインは、クオリティーが高く満足できるものばかりです。日本を代表する珠玉のワインをぜひお楽しみ下さい。このアワードが、ワインを愛する消費者の方々が日本ワインを選ぶときの一助になることを願ってやみません。

お気に入りのワインを見つけたら、ぜひそのワイナリーを訪問してみましょう。全国各地にあるワイナリーを訪れ、ブドウ畑に吹く風を感じ、ワインと同じ土から生まれた地元の食材による料理とのマリアージュを楽しみましょう。ワインとは、その産地の気候風土(テロワール)のすべてを楽しむものなのです。



一般社団法人日本ワイナリーアワード 協議会

代表理事／アワード審議委員長

遠藤利三郎

日本ワイナリーアワード® が目指すもの

Our Mission —私たちの使命—

日本ワインの生産者が世界品質を生み出すための“道しるべ”になること

日本各地にワインの醸造家が増え、日々技術と品質の向上に励んでいます。

日本ワイナリーアワードは、日本ワインの醸造家の中でも傑出した品質のワインを産出するワイナリーを顕彰することで、多くの人たちに日本ワインの価値を啓発すると共に、醸造家が目指すべき品質の指標となり、日本ワイン全体のレベルが向上して、世界に認められるワインとなることに寄与します。

Our Vision —私たちのビジョン—

日本ワインが世界に認められる存在になること

日本ワインの醸造技術が向上し評価も上がる一方で、関税の撤廃で輸入ワインとの市場競争も厳しさを増しています。

私たちは、日本ワイナリーアワードの取り組みにより、日本ワインが世界から認められる存在となり、他国の多くのワインに埋もれることなく多くの人から選ばれる存在となることを目指します。

日本ワイナリーアワード® の仕組み

審査対象： 審査対象は原則として、設立より5年以上経過した国内ワイナリーとする。
委託醸造ワイナリーについては、5年以上の生産歴があり最新のヴィンテージで年間1,000本（750ml換算）以上生産しているワイナリーを審査対象とする。

審査員： 世界各地のワインに精通し、10年以上に渡り下記のいずれかに従事するワインの専門家（ただし、醸造家は除く）

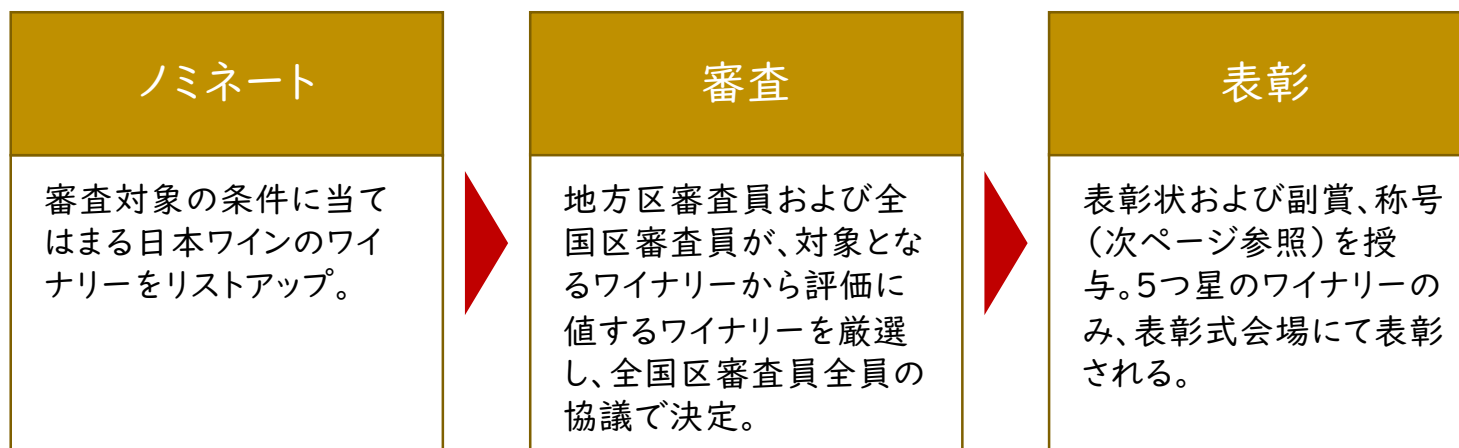
1. 日本ワインを広く取り扱う酒販店の代表者または仕入れ担当者
2. 日本ワインを広く取り扱う飲食店の代表者または仕入れ担当者
3. 日本ワインに関する著作・記事のある者

※消費者の目線に立った評価をするためにワイナリー関係者は含めない。

※審査員は2年ごとに見直す。

※各地区4名以上、主要地区は6名以上で審査。

審査方法：



日本ワイナリーアワード® の審査基準と称号

日本ワイナリーアワードはワイン単体ではなく、良いワインを生み出すテロワールとつくり手に与えられる賞です。消費者に一番近い立場にいるプロフェッショナルが、世界中のワインを知った上で「この日本ワインなら胸を張ってお客様におすすめできる」と評価したワイナリーに贈られます。

Japan Winery Award



5つ星は最高評価のワイナリー。

多くの銘柄・ヴィンテージにおいて、傑出した品質のワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award



4つ星は非常に高い評価のワイナリー。

全体的に良質で安定感があり、銘柄やヴィンテージによっては傑出した品質のワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award



3つ星は高い評価のワイナリー。

安定感があり、ほとんどのワインが良質で安心して購入できるワインを生み出すワイナリーが受賞します。

Japan Winery Award

コニサーズワイナリー

コニサーとは、鑑定家や目利きの意味。評価に値する個性あるワインを生み出すワイナリーが受賞します。

日本ワイナリーアワード® 設立メンバーのご紹介

『一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会』を設立しました

日本ワイナリーアワード 審議会は2020年2月25日、一般社団法人 日本ワイナリーアワード 協議会として新たなスタートを切りました。協議会一同、日本各地の地域振興に貢献できますよう、取組んでまいります。

■ 日本ワイナリーアワード 審議委員長

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 代表理事

遠藤利三郎 / *Risaburo Endo*

[本名: 遠藤誠 / *Makoto Endo*]

1962年東京生まれ。学習院大学経済学部卒。アカデミー・デュ・ヴァン講師、外務省在外公館赴任前研修日本ワイン講座担当、日本輸入ワイン協会会長、日本ワインコンクール審査員、塩尻市ワイン大学学長。ボルドー、ブルゴーニュ、シャンパーニュの3大ワイン騎士団を始め多くの騎士団から騎士の称号を受ける。著書に「ワイン事典(学研)」、共著に「日本ワイナリーガイド(新樹社)」など多数。ワインバー遠藤利三郎商店オーナー。

■ 日本ワイナリーアワード 顧問

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 理事

石井もと子 / *Motoko Ishii*

輸入ワインのマーケティングに関わり、各国のワイン生産者団体—NZ WINE Growers(ニュージーランドワイン栽培生産者協会)、WOSA(南アフリカワイン協会)、OWB(オレゴンワイン生産者協会)—の日本代表を務めた。傍らワインジャーナリストとして活躍。2006年よりガイドブック「日本のワイナリーに行こう」(監修・執筆)を発行、日本ワインの振興に努める。講談社「日本版ワインツーリズムのすすめ」など著作、寄稿多数。日本ワイナリー協会顧問。

■ 日本ワイナリーアワード 事務局長

(一社) 日本ワイナリーアワード 協議会 専務理事

山本光子 / *Teruko Yamamoto*

リクルート、西武百貨店本部営業企画室、札幌西武を経て、2001年(株)NTTドコモ北海道。販売促進担当部長、マーケティング部長。2004年(株)電通北海道。第1回日中韓観光大臣会合、洞爺湖サミット記念北海道環境総合展、エゾシカ利用促進事業、アイヌ文化啓発「イランカラプテキャンペーン」、食と環境・国際フォーラム、ミシュランガイド北海道2012などプロデュース多数。2014年(株)ぐるなび。上席執行役員プロモーション部門長。京都、日本橋はじめ日本各地の食・観光関係とのリレーションが深い。2020年4月～立命館大学食マネジメント学部客員教授、IT企業のCPROほか兼業複数。北海道シンガポール友好協会会員。日本広報学会会員。日本サウナ学会会員。ボルドー騎士団コマンドゥール。北大法学部卒。東京・札幌2拠点生活10年目。

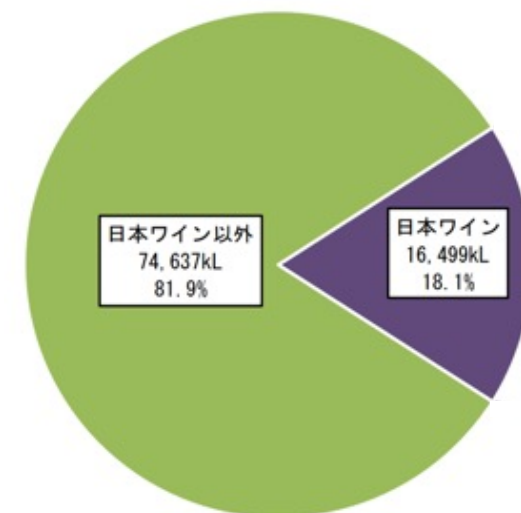
日本ワインについて

国内のワイナリーの数は年々着実に増加。
また海外での日本ワインの評価も向上、輸出量も年々増えています。

●日本ワインとは

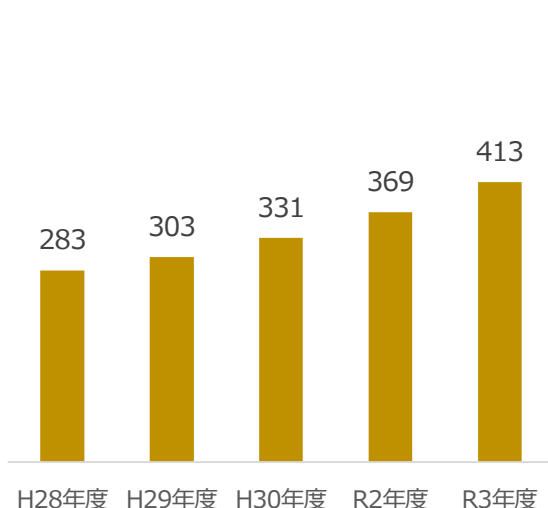
日本国内で栽培されたブドウを100%使用して日本国内で醸造されたワインのこと。
背景として、国内における酒類消費が横ばいの中、ワインは近年消費が拡大している成長産業であること、特に国産ぶどう100%を原料とする「日本ワイン」の中には海外で高い評価を受ける高品質なものが出てきていることから、日本ワインとその他のワインを明確に区別し、日本ワインには産地・品種・年号等の表示ができるよう、国税庁が2018年10月30日に制定。

国内製造ワインの製成数量構成比

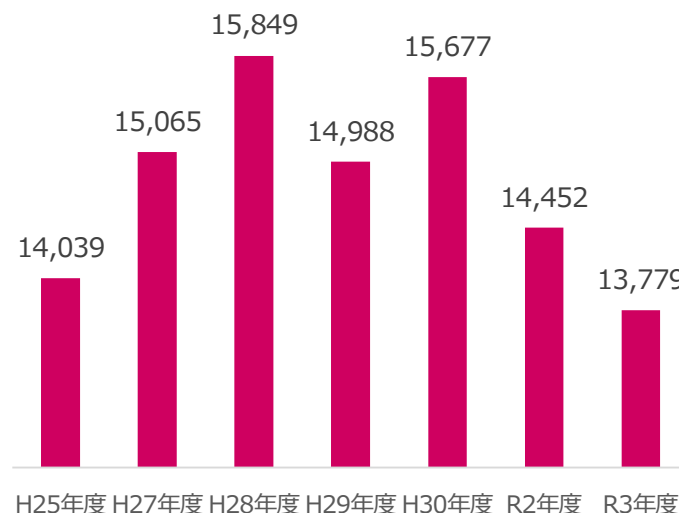


出所： 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況（令和3年調査分）」

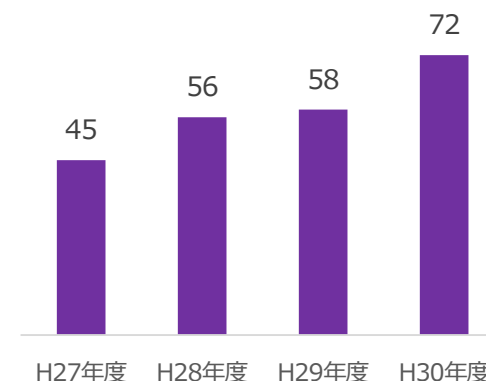
国内ワイナリー数（場）



日本ワイン出荷量 (kl)



日本ワイン輸出量 (kl)



出所： 国税庁「酒類製造業及び酒類卸売業の概況（平成27年～令和3年調査分）」

※果実酒製造業者実態調査によるものであり、必ずしも回答者が同一ではないため、経年比較にあたっては参考値であることに留意する

日本ワイナリーアワード® のあゆみ

▼第1回 日本ワイナリーアワード®



▼第2回 日本ワイナリーアワード®



▼第3回 日本ワイナリーアワード®



▼第4回 日本ワイナリーアワード®



▼第5回 日本ワイナリーアワード®



▼第6回 日本ワイナリーアワード®



▼第7回 日本ワイナリーアワード®
次ページ以降にレポート

第7回 日本ワイナリーアワード® 2024 開催レポート

- 会 名 称 : 第7回 日本ワイナリーアワード® 2024
- 開 催 日 : 2024年6月10日 (月)
【第一部】授賞式・発表会 17:00-17:40
【第二部】記念パーティ 18:00-20:00
※第二部は有料・立食形式
- 会 場 : 東京會館 7Fアゼリア、ロイヤル
(東京都千代田区丸の内3-2-1)
- 参 加 者 : 関係者 (メディア、関係省庁、ワイナリー関係者など) : 約70名
一般 (有料) : 約100名
- 審 査 員 : 計21名 (審議委員長、全国区審査員6名、地方区審査員14名)
- 特別審査員 : 鳴戸親方 (元大関琴欧州)
- ゲ ス ト : 山梨県知事、塩尻市長、ほか
- 後 援 : 農林水産省、観光庁、JF00D0
- 協 賛 : リーデル・ジャパン、株式会社グローバル
- 協 力 : 日本航空、DMO東京丸の内
- 内 容 : 【第一部】来賓、特別ゲストの挨拶、アワード受賞ワイナリーの発表、表彰
【第二部】5つ星ワイナリー代表ワインの有料試飲会 (醸造家との交流会)、トークセッション



第7回 日本ワイナリーアワード® 2024 受賞ワイナリー

2024年6月10日、2024年度の受賞ワイナリーを発表しました。



[5つ星]

17 場



[4つ星]

66 場



[3つ星]

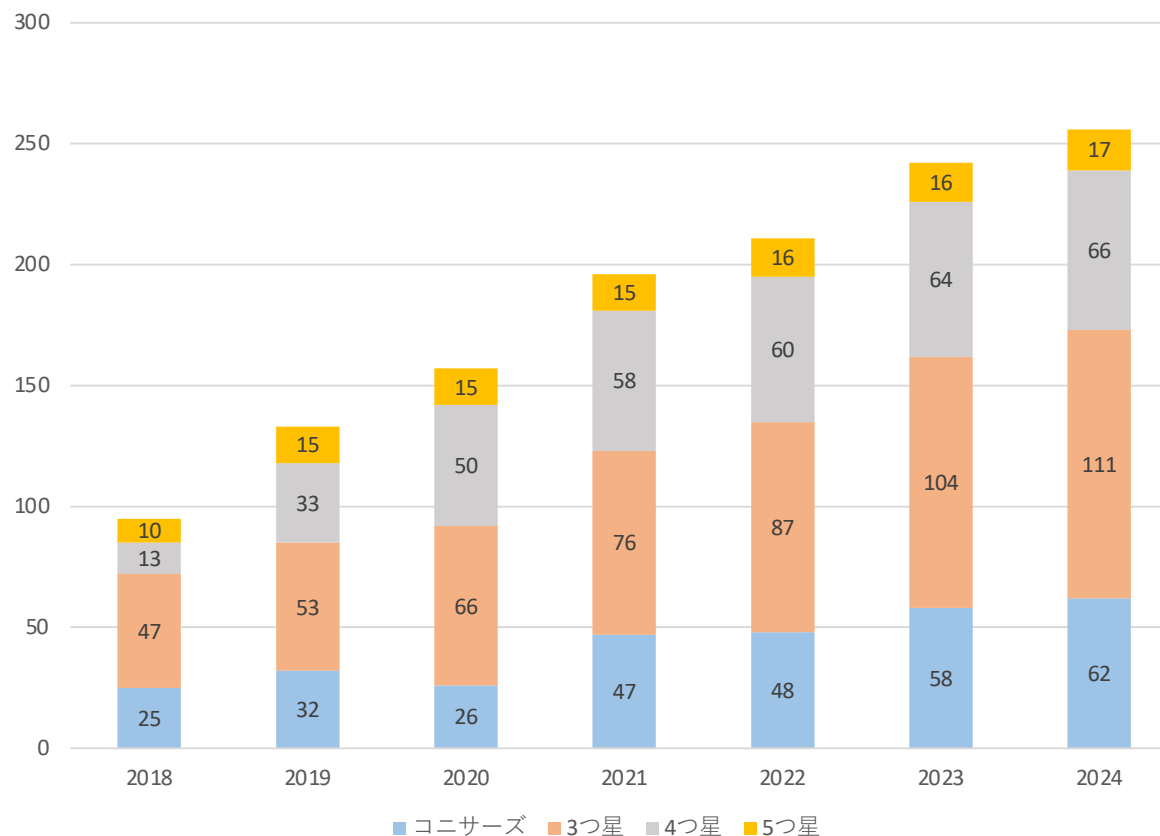
111 場

ユニサーズ

62 場

★★★★★ [5つ星] ワイナリー

- | | |
|-----|----------------|
| 北海道 | ドメーヌ・タカヒコ |
| 北海道 | 山崎ワイナリー |
| 山形県 | 酒井ワイナリー |
| 山形県 | 高畠ワイナリー |
| 山形県 | タケダワイナリー |
| 山梨県 | 勝沼醸造 |
| 山梨県 | 機山洋酒工業 |
| 山梨県 | Kisvinワイナリー |
| 山梨県 | サントリー登美の丘ワイナリー |
| 山梨県 | シャトー・メルシャン |
| 山梨県 | ダイヤモンド酒造 |
| 山梨県 | 中央葡萄酒 |
| 山梨県 | 丸藤葡萄酒工業 |
| 山梨県 | マンズワイン |
| 長野県 | 小布施ワイナリー |
| 長野県 | Kidoワイナリー |
| 大分県 | 安心院葡萄酒工房 |



第7回 日本ワイナリーアワード® 2024 開催レポート【第一部】

本年5つ星受賞17ワイナリーのうち14社に参加いただき、盛大に発表会を開催。協賛・協力企業、審査員など関係の皆様が例年にも増してご参集くださいました。日本ワインの勢いを感じる7期目になりました。



<特別審査員賞発表>
鳴戸親方（元琴欧州）より特別審査員賞発表。受賞はNiki Hillsワイナリー醸造家太田麻美子さん



農林水産省
平形雄策 農産局長



観光庁
加藤進 次長



JFOODO
北川浩伸 執行役

<来賓挨拶> ご後援の皆様より、ワイナリーへのエールのお言葉をいただきました。



初年度から協賛いただいているリーデル社アンギャル社長（左）グローバル社大谷統括（右）



<本年からスタートしたJAL賞発表>
栄えある初回受賞は5つ星も受賞した安心院葡萄酒工房

第7回 日本ワイナリーアワード® 2024 開催レポート【第二部】

7期目を迎えた本年は一般参加希望の声が多く、第一部アワード授賞式後に記念パーティーとしてより広い別会場を設けました。日本最高峰のワイナリーの代表ワイン17種類が全て試飲でき、かつ醸造家とコミュニケーションができる唯一の会ということ、ご参加の皆様から好評をいただきました。



「日本ワインで乾杯！」ご発声は本年特別審査員・鳴門親方



ご来賓挨拶は長崎山梨県知事



トークセッション「日本ワインの未来」



日本ワイナリーアワード® これまでの特別審査員賞

第3回 日本ワイナリーアワード® (2020年) に新設

▼第3回 (2020年)



岡 昌治 氏

一般社団法人日本ソムリエ協会
名誉会長

北海道

Niki Hills ワイナリー



脇屋 友詞 氏

Wakiya一笑美茶楼 オーナーシェフ

北海道

千歳ワイナリー

▼第4回 (2021年)



村田 吉弘 氏

株式会社 菊の井 代表取締役

山梨県

中央葡萄酒

▼第5回 (2022年)



寶井 英晴 氏

株式会社 蛇の市本店 5代目

北海道

10Rワイナリー



磯橋 輝彦 氏

株式会社 嵐山辨慶 代表取締役

長野県

井筒ワイン

▼第6回 (2023年)



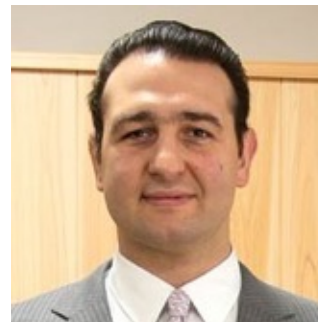
廣瀬 俊朗 氏

株式会社HIRAKU 代表取締役CEO
元ラグビー日本代表キャプテン

北海道

モンガク谷ワイナリー

▼第7回 (2024年)



鳴戸部屋 親方

(元 琴欧洲関)

北海道

Niki Hills ワイナリー



日本ワインで
乾杯の日®



日本におけるワイン造りは明治初期にスタートしましたが、今や全国で500社を超えるワイナリーが活動し、日本ワインが世界的なコンクールでトップクラスの評価を得ることも珍しくなくなりました。

2018年10月30日には「果実酒等の製法品質表示基準（国税庁告示）」が適用され、日本ワインに産地・品種・年号等の表示ができるようになったことで、日本ワインとその他のワインを明確に区別することができるようになりました。これは日本ワインのつくり手にとって、非常に意義深い記念日といえます。

国内外で日本ワインの評価が向上し、そのつくり手であるワイナリーへの注目も高まる一方で、国内のワイン消費に占める日本ワインの割合はわずか5%程度。まだまだ日本ワインのおいしさが知られているとは言えないのが実情です。

日本ワインで乾杯の日[®]は、日本ワインのつくり手とワインを育む自然に感謝と敬意を表し、おいしいお食事と共に日本ワインを味わうことができるレストランフェスティバルです。近い将来、日本ワインで乾杯の日[®]が日本ワインのおいしさと共に全国に広がることを願い、国道の起点である日本橋で開催しています。



第2回 日本ワインで乾杯の日® 開催レポート

国道の起点であり江戸時代から日本各地のモノ・コト・ヒトで賑わう日本橋を舞台に、受賞ワイナリーのユーザー向けプロモーションとしてスタート。テストプロモーションだった2022年から、2023年は自走化に向けて日本橋界隈のお店（日本橋 三四四会店舗）とタッグを組み開催。

名 称： 日本ワインで乾杯の日®

会 場： ▼乾杯セレモニー

会場： VINOSITY maxime 日本橋（コレド室町2・1F）

日時： 10月27日（金）15:00～16:30

▼飲食店プロモーション

会場： 蛇の市本店、繁乃鮨、いづもや、てん茂、
肉鮮問屋佐々木、三富魯久汁八

日時： 10月27日（金）18:00～21:00頃

主 催： 日本橋三四四会、
一般社団法人日本ワイナリーアワード協議会

協 賛： 三井不動産株式会社

協 力： 日本航空株式会社

運 営： 合同会社Food and Value Entertainment

後 援： 農林水産省、JFOODO日本食品海外プロモーションセンター



乾杯セレモニー

- 開催日時： 2023年10月27日（金）15:00～16:30
- 会場： VINOSITY maxime 日本橋
- 参加方法：
 - ・招待者 18名
 - （来賓・ゲスト・ワイナリー・メディア等）
 - ・一般来場者 48名

- 来賓：
 - 農林水産省 農産局長 平形雄策様
 - 日本食品海外プロモーションセンター 執行役 北川浩伸様
- ゲスト：
 - 余市町長 齊藤啓輔様



第3回 日本ワインで乾杯の日® (準備中)

第3回を迎える本会は、第7回日本ワイナリーアワード®にご協力いただいたDMO東京丸の内とともに、丸の内で開催予定で鋭意準備中です。今年度のアワード翌日である2024年6月11日(火)には、DMO東京丸の内において、JWAが全面的に企画協力した「最高の日本ワインを楽しむ会～日本ワイナリーアワード®5つ星受賞ワイナリーを招いて」を、80名規模で開催しています。

名称： 日本ワインで乾杯の日®

会場： ▼乾杯セレモニー

会場： フロントルーム (丸ビル1F)

日時： 10月24日(木) 18:00～20:00

▼飲食店プロモーション

会場： 丸の内ハウス (丸ビル7階12店舗)

日時： 10月24日(木)～30日(水)

このほか丸の内ワーカー向け日本ワイン勉強会など計画中

来賓/ゲスト： 農林水産省、観光庁、外務省、JFOODO

山梨県／長野県／山形県／北海道の4大ワイン県の自治体トップor準ずる方

※山梨県長崎知事2024アワード参加、塩尻市長(乾杯発声) ※2024アワード参加協賛協力企業、ほか